

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における複合助詞の表記：動詞の漢字表記に着目して

著者	本多 由美子
雑誌名	言語資源活用ワークショップ発表論文集
巻	4
ページ	94-105
発行年	2019
URL	http://doi.org/10.15084/00002558

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における複合助詞の表記 —動詞の漢字表記に着目して—

本多 由美子(一橋大学大学院言語社会研究科)[†]

Are Compound Particles Written in Kanji or Not?: Focus on Verbs in 'Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese'

Yumiko Honda (Hitotsubashi University Graduate School of Language and Society)

要旨

「にあたって」や「にしたがって」などの動詞を含む複合助詞は、動詞の意味が形式化した表現である。本動詞としての意味が失われていけば、動詞は仮名で表記される傾向が強くなると予想されるが、実際には「に当たって」や「に従って」という漢字を用いた表記も見られ、その傾向は明らかではない。そこで本発表では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用い、複合助詞 12 形式について複合助詞と同じ形式の用例を抽出し、複合助詞と本動詞の意味に分けて、表記を調査した。その結果、和語の動詞を含む複合助詞は仮名で表記される傾向が強く、「に関して」「に対して」のような漢語の動詞を含む形式は漢字で表記される割合が高いことが観察された。また、「をもって」は前に接する語の意味が表記の違いの要因になることが示唆されたが、「にあたって」は前に接する語および係り先の語の種類と、表記とに有意な差は見られなかった。

1. はじめに

複合助詞は複合辞¹の中で助詞相当語とされる表現である。複合助詞の中には構成要素に動詞を含む形式がある。例えば「ニアタッテ」や「ニシタガッテ」はそれぞれ、動詞「当たる」「従う」を含む。これらの形式は、書き言葉での用例では動詞が平仮名で表記される場合と漢字を用いて表記される場合の両方が見られる。(1) (2) は「ニアタッテ」、(3) (4) は「ニシタガッテ」の用例である。用例は本研究の調査に用いた『現代日本語書き言葉均衡コーパス (以下、BCCWJ と略す)』からのものである。

- (1) 私は今回厄年についての本を書くにあたって、二つの宗教施設を訪れた。
(LBt3_00153,280)²
- (2) GE 社内では、シックスシグマ導入に至った経緯や導入に当たって戦わされた議論は、特に重要視されていない。
(LBm5_00036,62580)
- (3) その言葉が、沙霧の亡きあと、時間が経つにしたがって、黒木の胸中で重さを増しつつあった。
(LBh9_00133,30720)
- (4) 被用者は年をとるに従って個人貯蓄を積み立てられるうに、社会保障や企業年金の受給資格も増す。
(LBj3_00155,66580)

[†] nihonda(at)hotmail.com

¹ 本研究では、「複合辞」は「幾つかの語が複合して一まとまりの形で辞的な機能を果たす表現」(日本語文法学会編 2014) とする。

² 用例のあとに示した () 内には本研究で調査データとして用いた『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のサンプル ID と開始位置を示す。この開始位置は複合助詞に含まれる動詞の位置である。また、用例中の下線は筆者による。

『日本語文法事典』³では、動詞を中心とした複合助詞は、動詞が本来の意味・機能を失って形式化した表現であり、その複合の程度は形式によって様々であると述べられている。動詞が形式化し、その意味を失っていけば、動詞は仮名で表記される傾向が強くなることが予想されるが、複合助詞の表記の傾向については明らかではない。そこで、本研究では複合助詞の中で構成要素に動詞を含む形式に注目し、複合助詞の表記の傾向を検討したい。

2. 先行研究

複合助詞を含む複合辞を分類したものに森田・松木(1989)、グループ・ジャマシイ編(1998)、山崎・藤田(2001)がある。これらを見ると、複合助詞に関する説明は、意味や用法、用例が中心である。表記については用例を通して知ることができるが、表記の傾向についての説明はほぼ見られない⁴。ここでは、表記についての先行研究として宮島(1969, 1991)を挙げる。これらは複合助詞を取り上げたものではないが、語の意味と表記の関係について述べられたものである。

宮島(1969)では、漢語の表記について、語を構成する漢字の意味が薄まることによって、語が仮名で表記される傾向が強くなると述べられている。この指摘は「挨拶」や「曖昧」など一部の漢語についてのものであること、また漢字の意味が薄まる原因として、漢字が一字で語として用いられなくなったために、漢字一字の意味がわからなくなったことが挙げられていることから、複合助詞の表記にそのまま当てはまるものではない。しかし、構成要素の本来の意味が失われることによって、その表記には漢字ではなく仮名が用いられるようになるという点は、複合助詞にも言えることではないかと考える。宮島(1991)では、雑誌に出現する和語について、仮名による表記と漢字による表記との傾向が比較されている。この中で、和語の動詞(以下、「和語動詞」とする)が仮名で表記される割合を高める条件として、語の用法が形式化することや、動詞の意味が抽象化することが挙げられている。宮島(1991)では、「みる、おく、いく(ゆく)」が「~てみる、~ておく、~ていく(ゆく)」のような補助動詞になる場合や、動詞の用法が抽象的な場合⁵に、表記に平仮名が用いられる割合が高まるということが指摘されている。

3. 研究課題

本研究では、書き言葉において、構成要素に動詞を含む複合助詞の表記の傾向を見ることを目的とする。複合助詞は動詞が形式化した表現であるため、仮名で表記される傾向が強いことが予想される。しかし、複合の程度に差があり(『日本語文法事典』)、また「動詞や名詞から派生した形式は、多かれ少なかれ、もとの動詞や名詞の名残を留め」(砂川 1987: 44)ていると考えると、動詞の表記に仮名と漢字のいずれが用いられるかという程度は、複合助詞のそれぞれの形式によって異なると考えられる。そこで、本研究では、複数の複合助詞の表記を見ること、そして本動詞の表記の傾向と比較することを通して、複合助詞の表記の傾

³ 日本語文法学会編(2014)「複合辞」(執筆:松木正恵)の項参照。

⁴ 本研究で調査した形式の中で、森田・松木(1989:19)では「ヲモッテ」の表記について述べられている。これは、表記に本動詞の漢字(を持って)とは別の漢字(を以て)が用いられる場合があることについての説明である。この説明については、後述する。

⁵ 宮島(1991)では、いくつかの動詞の用法が「具体」と「抽象」に分けられている。例えば「おく(置く)」の用法で、「具体」は特定の空間的な位置に具体的な物や人をおく場合、「抽象」は「距離をおく、重点をおく、なにをおいても」のような場合を指す。

向を検討したい。以下、「にあたって」のように動詞が仮名で表記される場合を「仮名表記」、
「に当たって」のように動詞の表記に漢字が用いられる場合を「漢字表記」とする。仮名表記には片仮名で表記されたものも含む。

4. 調査方法・手順

本研究では、複合助詞と同じ形式の用例を抽出し、そこに用いられている形式が複合助詞の用例であるか、本動詞の用例であるかに分類し、それぞれにおいて、仮名表記と漢字表記との割合を求める。以下、それぞれの割合を「仮名表記率」「漢字表記率」と呼ぶ。

4.1 調査データ

調査データには、BCCWJの「図書館・書籍」を用いた。「図書館・書籍」はBCCWJの総短単位数の約3割を占め、「極端に専門的な書籍や成人向け書籍が排除されることによって、より一般的な用語用字を調べるのに適していると期待される」(国立国語研究所 2015: 20)ことから、本調査に適していると判断した。

4.2 調査の対象とする複合助詞

調査の対象とする複合助詞は、表1の12形式である。複合助詞は森田・松木(1989)に掲載されている形式の中から、本動詞の用例が想定できるもの、および形式に含まれる動詞の漢字が教育漢字の範囲内であるものを選んだ。基本的でなじみのある漢字を用いる形式のほうが、漢字表記と仮名表記の比較には適していると考えた。表1の「動詞語種」は複合助詞に含まれる動詞の語種である。和語(表中では「和」)の動詞を含む形式が10、漢語(表中では「漢」)の動詞を含む形式が2である。「漢字学年」は、漢字の学年配当である。実際の漢字表記の用例には、旧字体を用いた例も見られた。

表1 調査の対象とする複合助詞

形式	仮名表記	動詞 語彙素	動詞 語種	漢字 学年	形式	仮名表記	動詞 語彙素	動詞 語種	漢字 学年
カライッテ	からいって	言う	和	2	ニツレテ	につれて	連れる	和	4
カラトイッテ	からといて	言う	和	2	ニトッテ	にとつて	取る	和	3
トイッタ	といた	言う	和	2	ヲトオシテ	をとおして	通す	和	2
トキタラ	ときたら	来る	和	2	ヲモッテ	をもって	持つ	和	3
ニアタッテ	にあたって	当たる	和	2	ニカンシテ	にかんして	関する	漢	4
ニシタガッテ	にしたがって	従う	和	6	ニタイシテ	にたいして	対する	漢	3

4.3 抽出した用例の分類

調査データから抽出した用例を複合助詞の用例と本動詞の用例とに分ける際、森田・松木(1989)に掲載されている複合助詞の意味・用法による用例を「複合助詞の用例」とし、それ以外を「本動詞の用例」とした。この「本動詞の用例」の中には本動詞の意味ではないものが含まれている可能性はあるが、森田・松木(1989)は複合助詞の意味・用法をかなりの範囲でカバーしていると思われる。それ以外の例があったとしても少数であり、表記の傾向に与える影響は小さいと考えた。なお、稿末の資料に、本研究で調査した複合助詞について、

森田・松木（1989）に掲載されている意味・用法の分類，および例文を示す。

4.4 手順

表記の集計は以下の手順で進めた。

- ①コーパス検索アプリケーション「中納言 2.4 (ver.1.1)」の短単位検索を用い，動詞の語彙素を条件に，表 1 に示した形式の用例を抽出した⁶。
- ②各形式について，100 例をランダムに抜き出し，目視で「複合助詞の用例」と「本動詞の用例」に分けた⁷。
- ③「複合助詞の用例」と「本動詞の用例」それぞれについて仮名表記と漢字表記の用例数を集計した。

5. 結果と考察

5.1 表記の傾向

表 2 は上述の手順にしたがって，各形式について意味と表記を集計したものである。括弧内は「複合助詞」「本動詞」の意味に占める割合である。例えば，「ニツレテ」は「図書館・書籍」における頻度は 1048 であり，そこから 100 例抜き出して形式の意味と表記を調べた結果，複合助詞の用例は 52 例で，そのすべてが仮名表記（52 例，100.0%）だった。「ニツレテ」が本動詞の用例だったのは 48 例，そのうち仮名表記は 6 例（12.5%）であった。形式の後ろに続く語は様々な語が観察された。本動詞の用例では，「～に連れて行く」「～を持っている」などの移動やアスペクトを表す動詞，複合助詞の用例では，「～にとっては」「に対して」などの助詞が観察された。図 1 は，表 2 を表記の割合に注目してまとめたものである。

また，「ヲモッテ」の漢字表記には「を持って」と「を以て」が見られた。本研究では，本動詞の意味の漢字を用いた表記と仮名を用いた表記の傾向を比較することが目的であるため，本分析では「を以て」を除外して集計する。なお，森田・松木（1989:19）では『もって』は本来，動詞『持つ』の連用形に接続助詞『て』のついた『持ちて』が音便化したもの⁸であり，「普通は『以て』と表現され，『持つ』の意味は全く形骸化している。」と述べられている。

表 2 および図 1 複合助詞の用例における表記の割合を見ると，まず，複合助詞で仮名表記の割合が高い形式として，「ニトッテ，ニツレテ，トイッタ，トキタラ，カラトイッテ，カライッテ，ニシタガッテ，ヲモッテ，ニアタッテ」の 9 形式が挙げられる。これらは，和語動詞を含む複合助詞である。仮名表記の割合は 72.3%（ニアタッテ）～100.0%（ニトッテ，ニツレテ）と 70%以上を占める。これらの 9 形式について本動詞での漢字表記率と比較すると，本動詞の用例が 0 の「ニトッテ」を除き，すべて本動詞よりも複合助詞の漢字表記率のほうが低く，仮名表記率が高い。これらのことから，和語動詞を含む複合助詞では，動詞が仮名表記される傾向が強いことが示唆される。また，本動詞よりも複合助詞のほうの漢字表記率が相対的に低く，仮名表記率が高いということは，宮島（1991）で述べられた，和語動詞の

⁶ 例えば，複合助詞「ニシタガッテ」の検索条件は，「キー：語彙素="従う"，前方共起（キーから 1 語）：語彙素="に"，後方共起（キーから 1 語）：語彙素="て"」である。「トイッタ」と「トキタラ」のみ，後方共起（キーから 1 語）の条件に書字出現形を加えた。「トイッタ」は「後方共起（キーから 1 語）：語彙素="た" AND 書字出現形="た"」，「トキタラ」は「後方共起（キーから 1 語）：語彙素="た" AND 書字出現形="たら"」である。

⁷ 100 例をランダムに抽出する際には R (ver.3.6.0) の sample_n 関数を用いた。

用法が形式化することによって仮名で表記される割合は高まるという補助動詞での考察を複合助詞でも確認するものである。

漢語動詞を含む「ニカンシテ」「ニタイシテ」の漢字表記率は「ニカンシテ」が93.0%、「ニタイシテ」が96.6%と、いずれも90%以上である。本動詞での漢字表記率と比較すると「ニカンシテ」は本動詞の用例が0であるが、「ニタイシテ」は本動詞の漢字表記の割合は100.0%である。上述の9形式と比較すると、「ニカンスル」と「ニタイシテ」は、上述の9形式ほど本動詞の意味が失われていない形式であると考えられる。

和語動詞を含む複合助詞の中で「フトオシテ」のみ、漢字表記率は和語動詞を含む他の複合助詞9形式と異なり、漢語動詞を含む「ニタイシテ」に近い。複合助詞の用例と本動詞の用例の意味の違いなどの検討が必要であるが、これについては、今後の課題としたい。

表2 各形式の意味と表記（複合助詞における仮名表記の割合降順）

形式	図書館 書籍計	100例						合計
		複合助詞			本動詞			
		仮名 表記	漢字 表記	計	仮名 表記	漢字 表記	計	
ニトツテ	10,135	100 (100.0%)	0 (0.0%)	100 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	100
ニツレテ	1,048	52 (100.0%)	0 (0.0%)	52 (100.0%)	6 (12.5%)	42 (87.5%)	48 (100.0%)	100
トイッタ ⁸	9,822	48 (96.0%)	2 (4.0%)	50 (100.0%)	23 (46.0%)	27 (54.0%)	50 (100.0%)	100
トキタラ	180	90 (93.8%)	6 (6.3%)	96 (100.0%)	3 (75.0%)	1 (25.0%)	4 (100.0%)	100
カラトイッテ	1,197	89 (93.7%)	6 (6.3%)	95 (100.0%)	1 (20.0%)	4 (80.0%)	5 (100.0%)	100
カライッテ	237	55 (80.9%)	13 (19.1%)	68 (100.0%)	6 (18.8%)	26 (81.3%)	32 (100.0%)	100
ニシタガッテ ^{※1}	1,311	8 (80.0%)	2 (20.0%)	10 (100.0%)	28 (31.5%)	61 (68.5%)	89 (100.0%)	99
ヲモッテ ^{※2}	10,737	21 (72.4%)	8 (27.6%)	29 (100.0%)	17 (25.0%)	51 (75.0%)	68 (100.0%)	97
ニアタッテ	1,347	47 (72.3%)	18 (27.7%)	65 (100.0%)	12 (34.3%)	23 (65.7%)	35 (100.0%)	100
フトオシテ	1,593	7 (9.6%)	66 (90.4%)	73 (100.0%)	2 (7.4%)	25 (92.6%)	27 (100.0%)	100
ニカンシテ	2,025	7 (7.0%)	93 (93.0%)	100 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (100.0%)	100
ニタイシテ	8,248	3 (3.4%)	84 (96.6%)	87 (100.0%)	0 (0.0%)	13 (100.0%)	13 (100.0%)	100

※1 誤解析1を除く ※2 「を以って」3を除く

⁸ 「いう」の漢字表記には「言う」「云う」が見られた。「云う」は旧字体ではないが、「言う」と同じ意味を表していると考え、漢字表記に含めた。

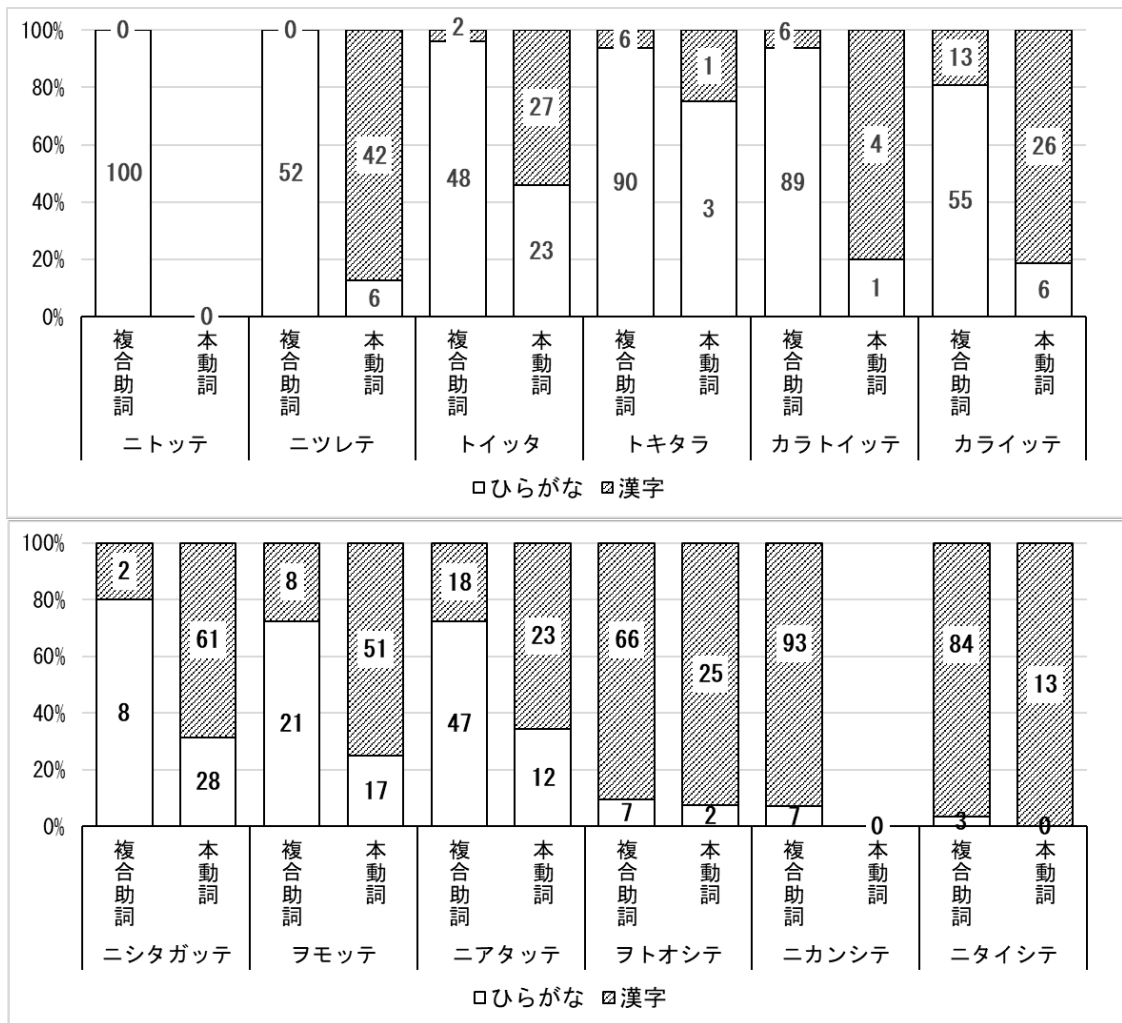


図1 各形式の表記の割合（意味別）

上述した9形式の中で「ニアタッテ」と「フモッテ」は漢字表記率がそれぞれ27.7%, 34.4%と他の形式に比べてやや高い。そこで次節では、「ニアタッテ」と「フモッテ」について、用例数を300例に増やし、複合助詞の用例において、どのような場合に漢字表記が用いられるのかを検討することにする。

5.2 「フモッテ」における漢字表記の傾向

5.2.1 分析対象および分析方法

「フモッテ」の用例300例について100例のときと同様に、用例を「複合助詞の用例」と「本動詞の用例」に目視で分け、それぞれの用例について表記の割合を求めた（表3）。「を以て」の用例12例は分析対象外とし、288例を分析対象とした。

「フモッテ」の意味・用法は森田・松木（1989）では、「動作・作用の行われる状態」や「手段」、「基準・境界」など複数ある。その中の「動作・作用の行われる状態」について、グループ・ジャマシイ編（1998:587）では「自信をもってがんばってね。」や「（前略）余裕をもってやらないからこういうことになるのよ。」などが例として挙げられ、「フモッテ」の意味・用法は『持つ』という動詞が使われているが、『自信』『確信』など抽象的な意味の名詞を用

いて、それを伴ってという意味を表す」と述べられている⁹。そこで、「ヲモッテ」の前に接する語に用いられる名詞の意味を「具体的な意味」と「抽象的な意味」に分けて表記との関係を見ることにした。

表3 「ヲモッテ」の表記の割合

	複合助詞		本動詞		計	
仮名表記	62	81.6%	56	26.4%	118	41.0%
漢字表記	14	18.4%	156	73.6%	170	59.0%
計	76	100.0%	212	100.0%	288	100.0%

「ヲモッテ」の前に接する語は、「具体的な意味」と「抽象的な意味」とに分類可能な意味のまとまりを抜き出した。両者の分け方は、「具体的な意味」が「形があるもの」、「抽象的な意味」が「形が確認できないもの」とし、語の意味を目視で分けた。指示詞や「痛いところ」など、その語だけでは判断できないものは、前後の文脈を確認し、文脈上で用いられている意味にしたがって分けた。また、わずかではあるが、同じ語でも「具体的な意味」と「抽象的な意味」とに分かれるものもあった。例えば、「いいもの」の用例で(5)は具体的な物を所有することについて述べているため具体的な意味とし、(6)はワインの比較をしており、ワインの特徴を指しているため、抽象的な意味とした。以下、本研究では、「前接する語」を「前接語」、「具体的な意味」「抽象的な意味」をそれぞれ「具体的意味」「抽象的意味」とする。

- (5) ところが、この欲望は、本来、自分を満足させるためのものですが、いくらものを欲しがって、それが手に入っても、つぎつぎにそれが古くなってしまったり、新型が出てきたり、隣の人がもっといいものを持っていたり、果てしが無い。

(LBo3_00021,19630)

- (6) 「カリフォルニアワインは実力をどんどんつけてきていますし、チリやアルゼンチンといった、いわゆる新世界のワインも最近、人気を呼んでいます。どう見ていらっしゃるんですか」(中略)彼は表情を引き締め、こう断言した。「それぞれにいいものを持っていると思います。

(LBr5_00029,72880)

5.2.2 「ヲモッテ」に漢字表記が用いられる場合

表4は前接語の意味と、表記の関係をまとめたものである。複合助詞の用例と本動詞の用例に分けて示す。()内は複合助詞と本動詞、それぞれの意味の中で占める割合である。ここでは、漢字表記率に注目する。複合助詞では、前接語が具体的意味のときの漢字表記率は0%、前接語が抽象的意味のときの漢字表記率は20.3%(計69例のうち14例)と、前接語が具体的意味のときよりも、抽象的意味のときのほうが漢字表記率が高い。一方、本動詞では、前接語が具体的意味のときは81.0%(計99例のうち81例)、抽象的意味のときは66.4%(計113例のうち75例)と、前接語が具体的意味のときよりも、抽象的意味のときのほうが漢字表記率は低い。

⁹ グループ・ジャマシイ編(1998:587)「もって1」の項参照。

表4 前接語の意味と「ヲモッテ」の表記 単位：用例数

前接語	複合助詞			本動詞			形式合計
	仮名表記	漢字表記	計	仮名表記	漢字表記	計	
具体的意味	7 (100.0%)	0 (0.0%)	7 (100.0%)	18 (18.0%)	81 (81.0%)	99 (100.0%)	106
抽象的意味	55 (79.7%)	14 (20.3%)	69 (100.0%)	38 (33.6%)	75 (66.4%)	113 (100.0%)	182
計	62 (81.6%)	14 (18.4%)	76 (100.0%)	56 (26.3%)	156 (73.2%)	212 (100.0%)	288

表4の複合助詞で「ヲモッテ」が漢字表記される場合はすべて前接語が抽象的意味の場合であった。14例に見られた前接語は以下の12語である。「信念」と「勇氣」はそれぞれ2例、その他の語はそれぞれ1例であった。

信念, 勇氣, 責任感, 満足感, 使命, 慈愛, 自覚, 生きがい, 誠意, 目的, 目的意識, 余裕

これらの用例を見ると、前接語は「信念を持って生きる」や「勇氣を持って対決する」など行動する際の態度や心持ちを表わしているものが目立つ。

前接語が抽象的意味のときの仮名表記と比較すると、上記の12語のうち、下線で示した「誠意, 目的, 目的意識, 余裕」の4語は、仮名表記される用例にも出現する語であった。その他にも「思いやりをもって人民に臨む」や「好感をもって指摘する」など、態度や心持ちを表わしている語も仮名表記55例のうち20例見られた。しかし、仮名表記のこの他の用例では、「法をもって治める」や「腕前をもってしても、～」など、前接語が手段を表す用例、あるいは「十日付をもって着任した」のような基準点を表していた。このことから、前接語が抽象的意味で、行動する際の態度や心持ちを表わす語の場合は、手段や基準点を表す語よりも複合助詞に漢字表記が用いられる傾向があることが示唆される。なお、前接語が具体的意味では、漢字表記の用例は0であったが、仮名表記の用例では「幾多の論著をもって提唱してきた」や「八月号をもって第千百号をかぞえる」など、すべて手段や基準点を表す用例であった。本動詞での表記の傾向と関連させて考えると、前接語が具体的意味の場合に、漢字表記が用いられないのは、『具体的意味』+『を持って』のように漢字表記を用いることによって、本動詞の「所有」や「携帯」の意味との区別がつきにくくなることを避ける意識があることも考えられる。用法の違いや、本動詞との意味の近さが、表記の傾向と関連していると思われるが、本調査では複合助詞の用例数が少ないため、詳細な検討は今後の課題としたい。

5.3 「ニアタッテ」の漢字表記の傾向

5.3.1 分析対象および分析方法

「ニアタッテ」の用例300例についても100例のときと同様に、目視で用例を複合助詞と本動詞に分け、それぞれの用例について、表記の割合を求めた(表5)。

「ニアタッテ」は「動作や作用が行われる時(機会)・場所・状況(場合)を示す」(森田・松木1989:19)ことから、前接語は「始める」「行う」などの和語動詞や、「開始(する)」「実施(する)」などの漢語の名詞に「する」がついて動詞になる語(以下、「名詞-サ変」とする)が多いことが予想されたため、複合助詞の前接語および係り先の語の種類に注目して分析を

行った。係り先の語の種類も分析対象としたのは、前接語の種類と合わせることによって、文体と複合助詞の関係が見られるのではないかと考えたためである。

表5 「ニアタッテ」の表記の割合 単位：用例数

	複合助詞		本動詞		計	
仮名表記	144	69.2%	40	43.5%	184	61.3%
漢字表記	64	30.8%	52	56.5%	116	38.7%
計	208	100.0%	92	100.0%	300	100.0%

まず、前接語は「ヲモッテ」と同様に、意味のまとまりで抜き出した。前接語の種類は、表6のように、大きく「1.漢語をもとにした語」「2.和語をもとにした語」「3.外来語・混種語」の3種類に分類した。語例は、用例の書字形で示す。「漢語をもとにした語」には、「名詞-サ変」に「をする」「する」、「ていく」のような「して」に補助動詞が付いた語や助動詞が付いた語も含めた。「和語をもとにした語」の中で、「改革を行う」のような「『名詞-サ変』+『を』+『和語動詞』」の語では、和語動詞が「する」以外の語はすべて「和語をもとにした語」に分類した。以下、本分析では便宜的に「漢語をもとにした語」、「和語をもとにした語」をそれぞれ「漢語」「和語」と呼ぶ。

表6 本調査で用いる「ニアタッテ」の前接語の分類

分類	語例
1.漢語をもとにした語	
①名詞-サ変	運用, 運行, 改正, 解釈, 解析等, 国際協力
②名詞-サ変 (を)する	維持する, 解説をする, 解釈しようとする, 実施していく
③一字の漢語+する	任じられる
④その他名詞	五十年忌, 最終回
2.和語をもとにした語	
①動詞	つくる, 送り出す, お悼みする, 考えていく, (改革を) 行う
②名詞	受け入れ, 幕開け
3.外来語・混種語	
	JR化, 評価替え, オリンピック, バックアップ

次に、「ニアタッテ」の係り先は、「ニアタッテ」の直後でないことが多いため、目視で確認した。係り先も前接語と同様に、「漢語」「和語」「外来語」に分類した。「ニアタッテ」の係り先は、(7)のような動詞や、(8)のような文の述部、(9)のような「ニアタッテノ」に続く被連体修飾名詞の用例があり、(10)のような係り先がないものも見られた。(10)はあとがきの見出しである。また、「ニアタッテ」の係り先が並列の場合は、原則として最初の動詞を係り先とした。下線は筆者による。係り先の語の種類は(7)は和語、(8)(9)は漢語である。(8)のような述部は助動詞を除いた語によって分類した。

- (7) 本書をまとめるに当たって、札幌大学の鷲田小彌太教授の力をお借りした。
(LBj3_00124,79000)
- (8) 核燃料サイクルとよばれるそれらすべての作業があつてはじめて原発が動くのであり、原発の危険を考えるにあたっては、そうした全体における危険を見ることが決定的に重要である。
(LBg5_00022,17190)
- (9) 金融監督等にあたっての留意事項について (大蔵省事務ガイドライン, 抄)

(LBn3_00140,10880)

(10) あとがき—新装再版の発行にあたって

(LBq7_00054,10860)

5.3.2 「ニアタッテ」の前接語の種類と複合助詞の表記との関係

まず、表5の「複合助詞」208例を前接語の種類によってまとめた(表7)。複合助詞全体の前接語は、漢語が128語で和語の74語よりも多い。漢字表記率は、前接語が和語(24.3%)よりも漢語(33.6%)のほうが9.3ポイント高いが、前接語の種類と複合助詞の表記について、2×2のカイ二乗検定を行ったところ、有意差は見られなかった($\chi^2=1.50, df=1, p=.22$)。なお、係り先についても同様に集計したところ、有意差は見られなかった¹⁰。

表7 「ニアタッテ」の表記と前接語の種類

前接語の種類	複合助詞表記					
	仮名表記		漢字表記		計	
漢語	85	66.4%	43	33.6%	128	100.0%
和語	56	75.7%	18	24.3%	74	100.0%
外来語・混種語	3	50.0%	3	50.0%	6	100.0%
計	144	69.2%	64	30.8%	208	100.0%

5.3.3 「ニアタッテ」の前接語・係り先と表記との関係

表8は、前接語と係り先の語の種類を組み合わせて、「ニアタッテ」の表記ごとの用例数である。表8には、表7の208例から以下の13例を除き、195例について「漢語」と「和語」の組み合わせによってまとめた。除外した13例の内訳は、表7の前接語が「外来語・混種語」の6例と、係り先が「外来語」あるいは「係り先なし」の用例7例¹¹である。前接語と係り先の組み合わせ、およびその表記について、4×2のカイ二乗検定を行ったところ、有意差は見られなかった($\chi^2=2.93, df=3, p=.40$)。このことから、本研究の範囲では、複合助詞「ニアタッテ」の表記は、前接語の種類と係り先の語の種類による有意な差はなく、仮名表記と漢字表記が同じ程度で用いられていると言える。

表8 「ニアタッテ」の表記と係り先の語の種類

前接語	係り先	複合助詞表記					
		仮名表記		漢字表記		計	
漢語	漢語	33	62.3%	20	37.7%	53	100.0%
漢語	和語	46	66.7%	23	33.3%	69	100.0%
和語	和語	39	73.6%	14	26.4%	53	100.0%
和語	漢語	16	80.0%	4	20.0%	20	100.0%
計		134	68.7%	61	31.3%	195	100.0%

6. まとめと課題

本研究では、構成要素に動詞を含む複合助詞の表記の傾向を分析するために、BCCWJを

¹⁰ 本研究の統計解析にはR(ver.3.6.0)を用いた。

¹¹ 表7の「外来語・混種語」6例と、表8の「外来語」と「係り先なし」の用例7例に重複する用例はなかった。

用いて、動詞を含む複合助詞と、同一の形式の用例を検索し、意味と表記の関係を考察した。本研究の考察結果を以下3点にまとめる。1点目は、「ニトッテ」や「ニシタガッテ」のような和語動詞を含む形式は仮名表記される傾向が強いが、「ニカンシテ」「ニタイシテ」のような漢語の動詞を含む形式の場合は漢字で表記される割合が高いことである。2点目は、「ヲモッテ」は、前接語の意味と表記とが関係することが示唆されたことである。3点目は「ニアタッテ」は、前接語および係り先の語の種類と表記には有意な差が見られなかったことである。

今回の結果では、和語動詞は語の意味が形式化すると、仮名表記が用いられるという先行研究(宮島1991)の指摘が、複合助詞にもあてはまることが確認された。しかし、複合助詞が漢字で表記される程度は、形式によって異なることも観察された。また、仮名表記と漢字表記の両方が用いられる複合助詞の表記については、前接語の意味が表記の違いに影響を与える形式があることが示唆された。

本研究の課題を2点述べる。1点目は、本研究では複合助詞の形式を限定して調査を行ったため、「に対し」「に当たり」などの連用中止形や、「をもちまして」「に関しまして」などの丁寧形を含む形式は考察できなかったことである。これらを加えることによって、複合助詞の表記の傾向がさらに分析できるものと思われる。2点目は、調査した形式が少なかったことである。「言う」を構成要素に含む形式など、他の形式も分析したい。

謝 辞

本研究を進めるにあたり、山崎誠先生(国立国語研究所)にご指導を賜りました。御礼申し上げます。

文 献

国立国語研究所(2015)『現代日本語書き言葉均衡コーパス』利用の手引き

(https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/doc/manual/BCCWJ_Manual_02.pdf よりダウンロード可能)

砂川有里子(1986)「複合助詞について」『日本語教育』62, pp.42-55.

日本語文法学会編(2014)『日本語文法事典』大修館書店.

宮島達夫(1969)「近代日本語における漢字の位置」『教育国語』16, 麦書房, pp.17-44.

宮島達夫・高木翠(1991)「雑誌九十種資料の和語表記」『国立国語研究所報告』103, 研究所報告集12, pp.1-82.

(https://repository.ninjal.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1352&item_no=1&page_id=13&block_id=21 よりダウンロード可能)

森田良行・松木正恵(1989)『日本語表現文型：用例中心・複合辞の意味と用法』NAFL 選書5, アルク.

山崎誠・藤田保幸著(2001)『現代語複合辞用例集』国立国語研究所.

関連 URL

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(通常版, BCCWJ-NT)

(http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/ 2019年5~6月利用)

資料

本調査で扱った複合助詞 12 形式の意味・用法の分類（森田・松木 1989 より）

形式	動詞 語彙素	意味・用法の分類 (森田・松木 1989)	例文 (森田・松木 1989 より)
カライッテ	言う	資格・立場・状態・視点	三代目は、その性格からいって、没落を大して深刻に考えないたちでしょう。(黄)
カラトイッテ	言う	逆説条件 (仮定)	日本人だからといって、すべて日本文化について知っているわけではありません。(型II)
トイッタ	言う	①同格	よろこびをかくしきれないといった歓迎ぶりが、まづなによりも有難く思われた。(砂)
		②強調	この地方の風俗にも生活にも一年中、これといった変化はない。(魔)
トキタラ	来る	①主題化	そいつの前足ときたら、まるで部厚い鞆をかぶせたようにもっこりとしていて、黄味がかっていた。(砂)
		②反語・反駁・否定・非難・後悔	「いいんですよ、気になさらないで……本当に、おせっかいなんだから、あいつときたら……」(砂)
ニアタッテ	当たる	時・場所・状況	「今度の事業を成功させるにあたっては、多くの人々の協力が必要である。」(J)
ニシタガッテ	従う	①時間的關係 (相関)	その子は大きくなるにしたがって、だんだんきれいになりました。(型I)
		②順接条件 (因果関係)	「字がだんだん複雑になり殖えるに従って、種々な物語が書けて来たというわけね。」(伸)
ニツレテ	連れる	①時間的關係 (相関)	政治の改革が進むにつれて、それに不満を持つ者が多くなりました。(MII)
		②順接条件 (因果関係)	都市の人口が増え、その区域が広がるにつれて、野菜の産地はだんだん遠くへ移っています。(型I)
ニトッテ	取る	資格・立場・状態・視点	芸術家にとって目的意識とは、彼の創造の理論にはかならない。(様)
ヲトオシテ	通す	仕手・仲介・手段・根拠・原因	映画を通して都会生活に憧れたこの娘の素朴な夢は……(型I)
ヲモッテ	持つ	①資格・立場・状態・視点	彼は伸子を助け自分の立場を理解しているものの自信を以て振舞った。(伸)
		②仕手・仲介・手段・根拠・原因	「今夜爆弾には爆弾をもって報ゆるであろう！」(夜)
		③基準・境界	一月一日をもって所長に就任した。
ニカンシテ	関する	対象・関連	この大学には有名な先生が大ぜいいるが、経済学に関していうなら、まず小林先生の名をあげなければならない。(J)
ニタイシテ	対する	①対象・関連	今日科学の欺瞞に対して感謝の意を表してしかるべきであろう。(現)
		②割合	アルバイト一人に対して一日五千円が支払われる。

※用例の後ろの () は、森田・松木 (1989) に示されている用例の出典を表す略号である。略号と出典については森田・松木 (1989) の凡例参照。